

## M i c r o s o f t W i n d o w s 9 5 での P P P 設定方法

医学部保健学科 中山 和 也

以下の文章は、私が実際に行った設定方法をまとめた文章です。この文章が、これから PPP 接続を行う方の手助けになれば幸いです。なお実際に設定を行う場合には、それぞれの機械に付属の説明書などをよく読み、各自の責任で設定を行ってください。（機械によっては、ハードやソフトが別売りになっていたり、付属されていても、別途にインストールする必要があるかもしれません。この文章は、あくまで一つの例にすぎません）

### 1. 始めに

この文章では、Microsoft Windows95 (以下、Win95) での PPP 接続方法、特に金沢大学総合情報処理センター (以下、情報センタ) への PPP 接続について述べる。情報センタへの接続に関しては、情報センタと連絡をとり行うこと (PPP 接続の手続きが必要なため)。

なお、筆者はWin95を使用して日が浅い初心者なため、間違い等が多々ある可能性がある。また記述に関して、長いメッセージ等は、省略している場合がある。

### 2. 使用機械

この文章を書くにあたって使用した機械は、次の通りである。

東芝製 BREZZA 5120CI

Pentium 120MHz HDD 850Mbyte RAM 16Mbyte 2nd Cashなし

FAX モデム (モデム:28.800bps)

CRT やソフト等を同梱した、俗に "オールインワンタイプ" と呼ばれているものである。

よって、ハードの設定や、ソフトのインストール等を行う必要はなかった。

他機種では、モデムの接続及び設定をすることはもちろんのこと、Win95の説明書を見てダイヤルアップネットワークをインストールしておくこと。PLUS!を持っている人は、インターネット関連のツールを全てインストールしておくこと。

### 3. ソフト設定方法

3.1. PPP の設定を行うため、次の順序で設定ファイルを開く。

【マイコンピュータ】→【ダイヤルアップネットワーク】→【新しい接続】

3.2. 接続名に適切な文字を入力する。(たとえば、センタ)

3.3. モデムの選択は、各自の機器にあわせること。

- 3.4. モデム選択欄の下にある、"設定(C)..."をクリックする。
- 3.5. モデムのプロパティというウィンドウが開く。そこで、【オプション設定】を開く。  
"接続の管理"の"呼び出してからターミナルウィンドウを表示(F)"を有効にする。  
【オプション設定】以外の【情報】や【接続】は各自の機械にあわせること。また、状況管理の"モデムの状態をウィンドウ表示(S)"も有効にしておくといよい。その後、右下の"OK"をクリックしモデムのプロパティを閉じる。
- 3.6. 新しい接続のウィンドウに戻るので、"次へ"をクリックする。次のウィンドウでは、接続先の電話番号の設定を行う。市外局番(情報センタの場合、0762)や電話番号(情報センタの場合、346938)を入力する。国番号は当然日本(81)である。
- 3.7. "次へ"をクリックする。すると、3.2で入力した接続名で設定ファイルを保存するという内容のメッセージが出る。"完了"をクリックする。

以上で、【ダイヤルアップネットワーク】内に3.2で入力した名前の設定ファイルが作成される。

次に、IPアドレスの設定を行う。

- 3.8. 【ダイヤルアップネットワーク】を開く。  
【マイコンピュータ】→【ダイヤルアップネットワーク】
- 3.9. 設定又は確認を行いたいアイコン(3.2の例では、センタというアイコン)の上にマウスを持っていき、右クリックを行い、プロパティをクリックする。
- 3.10. "接続の方法(N)"のところの"設定(C)..."は、3.4で設定したものと同じであるので省略。
- 3.11. "接続の方法(N)"のところの"サーバの種類(T)..."をクリックする。  
"サーバの種類(S)"は、"PPP,Windows 95,Windows NT 3.5, インターネット"である。  
なお、使用できるネットワークプロトコルは、"TCP/IP"を選択する。
- 3.12. 次に、"TCP/IP 設定(P)..."をクリックする。  
"サーバが割り当てたIPアドレス(S)"が有効になっていることを確認する。  
次に、"ネームサーバアドレスを指定(M)"をクリックし、有効にする。  
プライマリDNSに 133.28.20.12 を入力する。  
次に、"OK"をクリックし【TCP/IP設定】を閉じる。同様に、【サーバの種類】と3.2で指定した接続名、ここでは、【センタ】を閉じる。

次に、ダイヤル方法の設定を行う。(プッシュホン回線orダイヤル回線等)

- 3.13. 【ダイヤルアップネットワーク】を開く。  
【マイコンピュータ】→【ダイヤルアップネットワーク】
- 3.14. 設定を行いたいもの(3.2で指定したもの、ここではセンタ)をダブルクリックする。
- 3.15. 接続というウィンドウが開くので、その中の"ダイヤルのプロパティ(D)..."をクリックする。  
所在地情報が表示される。各自の環境に合わせて設定を行うこと。特にダイヤル方法、トーン信号かダイヤ

ル信号かを確認し設定すること。設定終了後、"OK"をクリックする。

以上で、ソフトの設定は終了する。

## 4. 使用方法

4.1. 【ダイヤルアップネットワーク】を開く。

【マイコンピュータ】→【ダイヤルアップネットワーク】

4.2. 接続先 (3.2 で指定したもの) をダブルクリックする。

4.3. "ユーザ名"と"パスワード"は、本来入力すべき項目であるが、前述までの設定では有効でないため、この2つの欄は無視する。なお、電話番号が正しいか確認すること。(情報センタの場合、346938)

(注意:上記のユーザ名とパスワードは、6. 追加情報で出てくる。)

4.4. "接続"をクリックする。

4.5. 無事接続するとターミナルウィンドウが開く。

4.6. しばらくすると、ダイヤル後のターミナル画面という画面が現れ、login名とPasswordを聞いてくる。この2つには、センタに登録したもの(PPP登録時のもの)を入力する。誤入力等でloginできなかったときは、NO CARRIERと表示される時がある。この場合、接続を切ること。

4.7. loginできた場合は、筆者の場合えたいの知れない文字がターミナルウィンドウに表示された。(文字化け???)この後、"続行"をクリックする。

4.8. しばらくすると"ネットワークに接続中"とメッセージが現れる。その後、通信状態(転送レートや接続時間等の情報)を示すウィンドウが現れる。これで、IP接続となる。

4.9. 接続が完了した後は、telnetやWWWブラウザ等が使用可能となる。

4.10. 終了時は、ネットワーク関連のアプリケーションをすべて閉じ(終了させる)、"接続の切断"をクリックする。

## 5. 注意点

情報センタに接続する場合、接続時にlogin名とpasswordが必要である。これらに関しては、情報センタにPPPに関する申請を行うことで得られる。

特に筆者の場合、"呼び出してからターミナルウィンドウを表示(F)"を有効にすることに関してかなり悩んだ。この設定以外のところは、見ればすぐわかると思う。

## 6. 追加情報

A. ダイヤルアップスクリプトの設定方法(ダイヤルアップスクリプトツールを持っている人)  
(4.3で失敗したloginが成功する)

A.1. ダイヤルアップスクリプトツール (【スタート】→【プログラム】→【アクセサリ】の中にある) がインストールされていることを確認する。

最初に、3.5 での設定を変更する。(ターミナルウィンドウを表示しないようにする。)

A.2. 【ダイヤルアップネットワーク】を開く。

【マイコンピュータ】→【ダイヤルアップネットワーク】

A.3. 設定又は確認を行いたいアイコン (3.2 の例では、センタというアイコン) の上にマウスを持っていき、右クリックを行い、プロパティをクリックする。センタというウィンドウが開く。

A.4. "接続の方法 (N)" のところの "設定 (C)..." をクリックする。

A.5. モデムのプロパティというウィンドウが開く。

そこで、【オプション設定】開く。

"接続の管理" の "呼び出してからターミナルウィンドウを表示 (F)" を無効にする。

必ず、"呼び出してからターミナルウィンドウを表示 (F)" を無効にすること！

A.6. その後、右下の "OK" をクリックしモデムのプロパティを閉じる。

センタというウィンドも "OK" をクリックし閉じる。

ダイヤルアップというウィンドウも閉じる。

次に、設定ファイルを1つ作る。

A.7. テキストエディタ (メモ帳等) を起動し、次の内容の接続手順 (これをスクリプトファイルというらしい) を作成し、SCP という拡張子のファイルネーム (例えば、センタ.SCP) で、

¥Program Files¥Accessories というディレクトリに保存する。

もちろん、¥Program Files¥Accessories というディレクトリが、Aドライブならば、

A:¥Program Files¥Accessories にいれる。

(絶対にここでなければいけないということはないが、A.9 での設定がちょっとだけ楽になる)

センタ.SCP の中身は、以下の proc main という行から、endproc という行までである。

```
proc main
    waitfor "ogin:"
    transmit $USERID
    transmit "^M"
    waitfor "word:"
    transmit $PASSWORD
    transmit "^M"
endproc
```

次に、上記のスクリプトファイルが動くように設定する。

**A. 8.** 次の順序でダイアルアップスクリプトツールを開く。

【スタート】→【プログラム】→【アクセサリ】→【ダイアルアップスクリプトツール】

"接続 (C)" 内に、3.2 で作成したもの (ここでは、センタ) をクリックする。

青地に白い文字になる。

**A. 9.** スクリプトの "ファイル名 (N)" には、上記の (A.7 で作った) スクリプトファイルをフルパスで書く。

"参照 (B)" というところを押すと、¥Pogram Files¥Accessoriesにあるファイルが表示されるので、その中の該当ファイル (ここでは、センタ .SCP) をクリックして選んでもよい。

これで、"接続 (C)" には、3.2 で作成したもの (ここでは、センタ) が選ばれ、スクリプトの "ファイル名 (N)" には、上記の (A.7 で作った) スクリプトファイル (ここでは、センタ .SCP) が入る。

**A. 10.** スクリプト下の、"最小化したターミナルスクリーンを起動する (M)" を有効にする。

**A. 11.** "更新 (A)" をクリックする。

これで、接続先 (センタ) と接続手順を記述したスクリプトファイル (センタ .SCP) が関連づけられた。

以上で、ダイアルアップスクリプトの設定は終了した。

使用方法は、4.3 での "ユーザ名" と "パスワード" の欄に、登録したもの (PPP 登録のもの) を入力する以外は、4. 使用方法と同じである。

当然、ターミナルウィンドウで現れた、えたいの知れない文字化を見ることはない。(ターミナルウィンドウ自体が現れない)

いかがでしたでしょうか？

設定自体は、3. のみを読めばできます。6. に出てくるダイアルアップスクリプトツールは、必ずしも必要ではありません。

なお、センタにあるワークステーション (kenroku.ipc.kanazawa-u.ac.jp) にあった 29378bytes のファイルを FTP でとってきたところ、転送速度は、1.88Kbytes/sec と表示されました。

最後に、この文章を書くにあたり、松本先生、大石先生、小野口先生、北川先生には、大変お世話になりました。ありがとうございました。